

## 「一般社団法人 阿蘇門前町商店街振興協会」に支援金を助成 ～「阿蘇かがやきプロジェクト」を応援～



10月16日、阿蘇神社において、「阿蘇かがやきプロジェクト」の事業発表会並びに支援金の目録贈呈式が行われました。

2017年10月16日（阿蘇神社）

地域の活性化支援

キリングroup、熊本県、日本財団は、熊本地震からの創造的復興に向けた『復興応援 キリン絆プロジェクト』熊本支援に関する包括支援協定に基づき、昨年末以来、県内の行政機関、民間企業や団体に対し、様々な支援を行ってきた。今回、阿蘇神社の門前町商店街のブランド化や「阿蘇ベジッポ」の商品化を推進する一般社団法人 阿蘇門前町商店街振興会「阿蘇かがやきプロジェクト」に対して1,000万円の支援金を助成。10月16日、阿蘇神社にて贈呈式と同プロジェクトの事業概要発表、成功祈願が行われた。

熊本地震で大きな被害を受けた阿蘇神社。復旧への道のりも遠く、神社の横参道に連なる門前町商店街は、まだ客足も戻ってきていない。そうした状況の中、商店街が一致団結。今まで以上に魅力を発信していくため、商店街共通のブランド「～ASO MONZEN～」を立ち上げ、店主らを中心に協働でブランドを創り、磨き上げて、県内外への浸透を図る。

また、ブランド化の具体的な動きとして、地元野菜をパウダー化した「阿蘇ベジッポ」シリーズの開発を実施。第1弾には阿蘇産高冷地トマトを採用し、販売だけでなくパウダーを使用して作った新メニューを、商店街各店で提供する。集客力のある観光資源との相乗効果を創出して、地域の活性化を目指していく。



笑顔で結ぶ。人を、日本を。

## コメント①

一般社団法人 阿蘇門前町商店街振興協会 代表理事 宮本 数吉 様

熊本地震から1年半が経ち、徐々に復興は進んでいるものの、阿蘇の大動脈である国道57号線は通行不能な状況が続き、JR豊肥本線に至っては全線開通の見通しさえ立っていません。もちろん私たちは、今までもこれからも精一杯努力して参りますが、資金面など努力だけでは解決できない問題もあります。今回、手厚いご支援をいただいたことは、私たちの活動の大きな原動力になります。キリングループ様、日本財団様、今日ご出席の皆様、その他行政・企業の皆様、そして私たちを見守り続けてくださる阿蘇神社の神様、これらすべての力なくしては、本プロジェクトは成就しません。今後ともご支援、ご指導賜りますようよろしくお願い致します。



## コメント②

阿蘇市経済部 部長 吉良 玲二 様

阿蘇市は農産物のブランド化が進んでいる一方で、加工品が少ないのが弱点です。それだけに「阿蘇ベジッコ」への期待は非常に高いものがあります。また、門前町は人材も豊富なので、これを契機に、復興に向けて阿蘇地域全体を牽引していただきたいと思います。「復興応援 キリン絆プロジェクト」熊本支援」では、今回の門前町をはじめ、阿蘇市だけでも草原景観の保全を進める牧野組合や、サイクルツーリズムを推進する「コギダス」に対してもご支援をいただいております。キリングループ様、日本財団様には心より御礼申し上げます。



### コメント③

#### 一般社団法人 阿蘇門前町商店街振興協会 理事 岩永 芳幸 様

「協働で創り上げる新しい門前町ストーリー」というビジョンを掲げ、協会員全 38 社はもちろんのこと、行政や JA、生産者など多くの皆さんに協力、協働していただきながら、地震前よりも輝く“持続的かつ魅力的な地域づくり”を行って参ります。これまで各店や個人で行っていた開発や PR 等を“点”とすれば、その点を結び、線として繋がり、面となります。そうして商店街が一体となることで、「阿蘇ベジッコ」のような新しいモノを創り出したり、既存のものにも新たな付加価値が付けられると考えています。「阿蘇ベジッコ」には、規格外で破棄されるはずのトマトを利用しており、生産者にも喜んでいただいています。今後はワークショップ等を行いながら、トマト以外の野菜の活用や、パウダー以外の商品も開発していきます。



### コメント④

#### 麒麟ビール株式会社 熊本支社長 安武 直幸

私は阿蘇市に隣接する高森町出身で、故郷である熊本・阿蘇で仕事ができることを大変誇りに思っています。「阿蘇かがやきプロジェクト」は、商店街全体をブランディングしていくという非常に興味深い事業内容で、私たちも微力ながら継続的に支援させていただきます。また本日より、阿蘇の世界文化遺産登録を応援するため、「麒麟一番搾り生ビール」と「麒麟午後の紅茶おいしい無糖」の『阿蘇の草原に乾杯』デザイン品を、九州エリアと沖縄県で数量限定発売いたします。売り上げ 1 本につき 1 円を草原再生の支援として、寄付させていただきます。これからも熊本の皆様の笑顔に貢献できるよう、復興から未来に繋げていけるよう取り組んで参ります。



#### コメント⑤

一般社団法人 阿蘇門前町商店街振興協会 理事 宮本 博史 様

地震からの1年半を振り返ると、多方面から物心両面での心寄せをいただき感謝に堪えません。一方で、商店街全体のことを考えないといけない、しかし、まずは自分の事業と従業員の雇用を守らなければならないというジレンマの中で、もがき苦しんだ1年半でもありました。ただ、本当の勝負はこれから。今回、「阿蘇ベジパウダー」を使った新メニューを商店街各店で開発しましたが、一つのテーマで商品ができるのは初めて。私の店『はなびし』でも、取り寄せ可能なレトルトのチキンカレーやドレッシングなどを開発しました。いただいたチャンスを自立・自走型の事業へと確立していくためにも、ニーズを捉えた商品開発、PR、営業活動を積極的に行っていきます。



#### コメント⑥

一般社団法人 阿蘇門前町商店街振興協会 理事 杉本 真也 様

6月の九州北部豪雨の影響もあったためか、夏休み期間中の観光客はかなり少ない印象でした。発災後1年は国などから様々な支援がありましたが、これから本当の戦いが始まるのだと実感しています。私の店『とり宮』では、看板メニューの“馬ロッケ”に「阿蘇ベジパウダー」や「阿蘇ものがたり」のトマトピューレを加えた“トマト馬ロッケ”を作りました。働く女性が多い時代に合わせ、気軽に野菜を摂ってもらえる商品を開発していきたいと思います。また、災害は今後も、いつどこで起きるか分かりません。これから数年を大切に過ごし、万が一、次にどこかで災害が起こった時、私たちのノウハウを伝えていけるよう、しっかり実績を作っていきます。





## コメント⑦

### JA 阿蘇 中部トマト部会 部会長 竹原 輝一 様

一昨年は熊本地震、昨年は10月に阿蘇の爆発的噴火と、阿蘇地域は立て続けに自然災害に見舞われています。噴火では、噴石でトマトを栽培していたビニールハウスに穴が開き、そこから火山灰が入り込むなど、大きな被害が出ました。しかし、今年は各農家の努力もあって平年以上の収穫ができ、ひと安心しているところです。そして今回、「阿蘇かがやきプロジェクト」で阿蘇産のトマトを使った加工品を作っていただけるとのことで、大変嬉しく思っています。これからも安全・安心を第一に、美味しいトマトを作っていきます。

